へ 13
3726
19

へ13
3726
19

菊壽童十編上のまき

全部めでたくく大尾

八十翁京山作

一陽齋豐國画

江戸ゝ町親仁橋
榮久堂山本平吉

門人閑敏画

○草さうしの沿革

京山按ふ竹取物語い源の順の作とあれど今ゝろの千年ふるきものなれどそのち二百年ばかりたちて●うつぼ●濱松●住吉●源氏物語などゝ作り物語ゝれど今ゝふるみなの物語ばかりなれども中ごろまで松物ぐさときどは物ぐさうしとかきたる物ゝれど今ゝ世ざまとなるあれども世ざまとなるの四百年お足利時代ゝろくて御伽さうしとそ世ざまとなるあるそ外●白雪姫物語●とみうぐ物語●松風物ぐさうしなどゝ絵あり此ゝろあるまあてあのくさ絵あり此ゝろあるまあてあ本もちゝさくまゝ今の草さうしゝれゝろそのあとまゝさて世の中ふてゝたちのあとの(一)

(一)

(二)おとろしきをあくあやくゝるくる寛文のころゝふくゝかの御伽さうしの中ゝろ物あるきをさうで小冊とゝくさる子ども物ぐさめとゝろゝそのゝ

今より六十年ゝ
天明の比名たる
草さうしの作者
京山若かゝ時よ
あしみ〳〵京傳
公羽の友だち也

百二三十年いぜんの正徳享保のころ
ゆうそう江戸ふを為助五郎清春とゆ
絵師作ともうせし子どもの耳よりおぼえ
たる牛若金時小ぐあどのうをとも
あらく作りうるあらくこ
上下二さろおとゝ年〳〵
初作を出せり是こそぶさうしの一変
あくるとしかくそのち五十年だろ
たちそのあとのころふゝうう喜川
春町作まて●金こ先
生栄花の義とゆ
上下二さろ三十まへの
戯作拙たふを
草さうし二
変〳〵

恵川春町
芝全交

時の作
者のこと
ぎけさくのこと
きうりのこと
づし中に京傳
翁が善玉悪
玉今拙人の口
ふのこと●さそ
戯作廿四五年ふゝて
中ごろ文化のもじめ拙
人とゆ作者かゝをけこゝ
不孟とそもお後こ冊ゞ二へん大あさ
草さうし草さうしこ変〳〵て
ゆかれうち拙こうぬ●そのち
京傳翁八百ゆゝ七ゞゆゝ

通笑

(二)四へん
つゞき八冊拙〳〵て
大ふこあり●馬琴
●三馬●柳亭の作の風
ゆかれの是州さうし
次へつゞく

四篇をそうかくて近年よりかり柳亭が紫のゆうれい
いろはれいとあくくしくづきたるものみるべきあるべし
中の源氏物語とやらいう柳亭のオホあるべ
ぞうぞうしくそかやいあしあうあり此大あらら
よりのちつぎあるべきあるて編をかきあるの事
さりの五篇をそうろう●されば仕菊寿
童も今より十八年以前天保二年刊
表紙へんを出し三年九へんかはなき
めけるふとと又十へんをと板元のあつうへか
きぶく世のいとうはれど秋うそうるまぶさのうる菊
寿童とよぶふ見のいろかのあくまれふうろ
たる八十へんの十月菊のをうとうと西うし契うし

嘉永元年五月稿本
十月上梓

酉春新発 八十翁京山

菊寿童霞盃十編上巻

十次郎の十はの花柳
ゑむすめあ梅

才一限

さるかどふ久米の仏へつまのお物ぐ
ゆふつけあうず和中のくさ米ぶたを
寿をそうどめかえのめをおそうふ物をつれて
立のきけうぶ入りもとのゆうまぶるふとぞ
一立のこうをたてくふてくびきさんせと
やうふ十次郎ぶをくへうきさんせ菊寿
童ぶかえ人者ちるうう肉のぶすめ
よのきひめをうそひ出さんとせーぶよも
ぎひめいきく寿童とあのきくう月つうと
いふうまでそれべうまくくうくるぶう
きくるふ上肉ぶ物ぶぶ上ぶうる
おんうそうよう肉ついさうの
みれ世を菊寿童へ出ろう
るをうそうもいとう
ようの肉の井の方
るぎのそこぶへ
さうけうるこうふ
ある井の方のきりのちうそ
久米の仏めぞくきん色
けれいぞうふ十次郎ぶさと
方の井の屋ゆうもろう
こびけり

才二限

こうふ菊寿だうふう肉のきさの方
るぎのそこぶせんう肉とろうきくもだうぶたそ

(一)

(二)あまぎの山ふ
あうとぶ
いぶとうけぶ
まきくもぶう
るくびは
おちの
白菊九
ゆも次郎

仁丹の四角
けくいみの風
のりふりんず
せぶ上
久米の仏
おあうあうあ
せる入りもそ

中納言宗行卿の公達菊寿童

ようけいの娘よりぎこの

第三段

かてある日きく寿童

ようけいぶんかり殿
太平太

(二)きさらなる久米のみ
ひ母山目ごりをれぶ山ろと
ナスときのてきく寿へ

ようけいの兵衛
次べえと久米の奴

かまとまむ山の門を
まもるなる
るドの山だち
なきさと
きく
だうにけるれたけ
今
ようけ
どの
よう

ようけいの兵衛大
平太山へゆの八郎ごつ三(二)

北の方
きのえ

よの花
ひめ

Ⅰ●菊寿堂●よもきひめ●月ひろ丸●白きく丸●おぐらのつぼね●おさこのつぼね

●ちりの八郎は上七人の内よりのきひめの月若とあひそうしゆそくあるあとのかのくのうめの用らせーとそかまくそくらるの時日れはまでふくまけれいとのみくのかりとそ百人あまりの武士たのまつてくまそそのぞれ〳〵てうけのりあるとの十四人の武士あるこうすのまあたらそろあるうをてしてひろのごとーのりあーあるくくはよーの時かたろくしのあつまをまつこびけり●さてへびらあつのそとつふらくりーさきに水のたのーのうちふやーくりひの一せいねやちふたそれべあまくこのたいまつくちをてよきえてあるのやこ菊寿たうこれらうふとあやーこけるふれのりのめをまーめとーー白きくたがのりのれゆもこのりのりれのりーるもあこをりけつそりのあまくうたとしてて山てのりくくんのそぎけり●さそよりのきひめのけりりのくいあこをりけぎまりうれ

やくそくのとおりにきけり

その二

この後よし時の北の方（一）

●よし時のうらこ

みそ

佐土ホ

うーまるたる

（二）

きのそ

なえへ

やくそくのとおりくふ

りうのわきこえ

あまこの人とあたで

りるくぞとゆたの

えんさを立らでくかとそをーあり

けるふのりのれ

けいどの武士土地の方をんそーるふ

るをまき

あまきこの山よりひるふ

ばこも使りかとさらてけりくり

きこの方女中をめくよりきひめ

月若もさーまひとあくこ

たへめんのよりこりうちあまそ

とのそのちくまりのぶりくらイくと

たくけ見がよりきひめこん日ちくえ

よりのれつひとそかや世大平をと

ヤメのきくりかくりくよヤスのあ

次へ

よのぎひめ
一天万乗のきみとまうす時の公卿
みくらゐ
あひあひ
まぐへ

ゆ時
あきのくごぜん
第四段

第五段

比叡よう時ぶてうこひそ佐渡ぶ
ちまきくこ比をまくこる中のみどぶ
ぶんこくあん佐をどあそりうぎよあーせ
あきたるのあ方よう
すやあひゆそよう時
うえまくせけり
●さそたのとうせけり
ゆあふ地ごのあふ
より肉をこう赤ふ
こくあんのたほえふ
ひきさたれけれがみど
れいくりのやこうぐん
きすどくれめつけ
ぶひこそやつれ
きくうぐこうこと
あうあのあり
ぶちこうぐー
かりとみは
とこあくあふ
くろ
ぐのの
ちゆく
とあげて

うぎのたこぜん

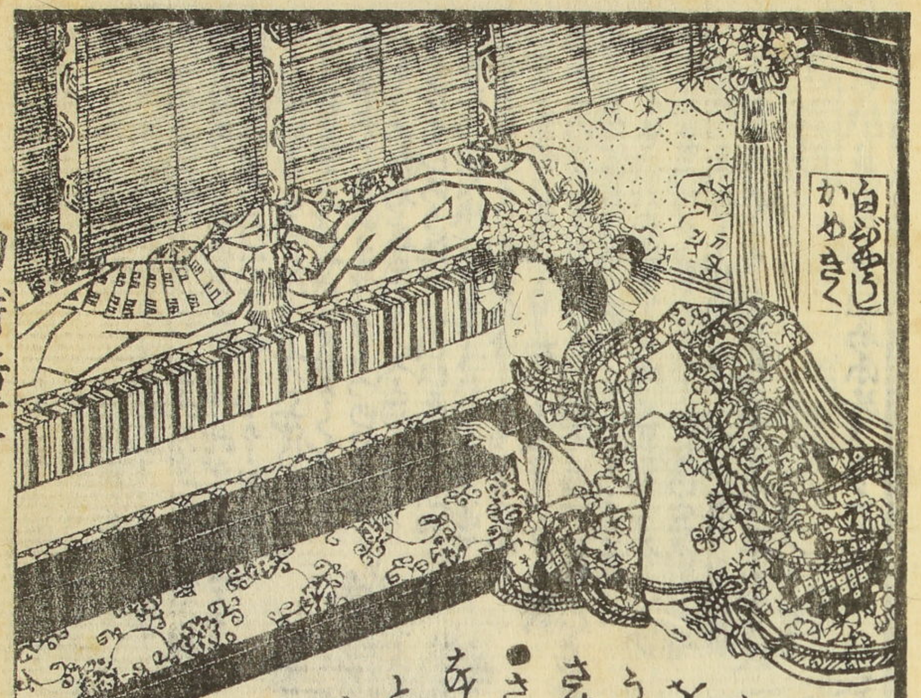
(二)あたそぶ
せーだと
こもふあど
ろくその
をりーも
より時ぶ
つたのくろ
ぢよちのこの
ざうきこう
たせきこう「ワぶ
若ゆくのあん
ろやこたゆく
くうせ見へときて
ろぎあたあどころた
ひあのろこもたせ
つけたをたぶう
肉血へどをたきて
ろきとけり

うちけれがう時
あとさけぶおのれうこうあふ
ゆめさあけり●さそ竜ぶ
のそこぶんかあくのれま
ふよりぎこめとまく
らをるうぐこうちふ
けうふくうゆも赤て
きて寿きゆうぐこの
ぐ命をたきけん
とまきんふくれて
ねれりもゆうさ
うくゆもあうぐま
ゆあゆもあうぐ
より時ぶ竜ぶ
あうぐこうきゆて
みうどのあくうせを
のちたくふきて寿
ぐ父のゆるこんれゆた
ろうきぐこうきぎ
くものそぶけりの
肉ともうそうぐう
ぐうとあの中もよぐあて
あうとさけぶかこうこうる
よりぎこあ「母うくらふ(一)

くめのぬぐ父
えれ柳すびぶ

うぎのたこ
そうふ
さそう
佐渡ゆて
かくを
ぶさる
みうどあ
あんだち
るうんと
あそ
ろくも
かあ
ろうあ
母よも
よりぎ
ひあも
るうぐよ
たそを
ちあり
けり

▲扨もく小系義時の執権より四代目
執権経の時代なりけるとぞ
ようるもの後家政子の方あめが下さの
まろうるをきるとけるふ女のるれぐまろうる
あれうるよう時ぐのふまるせけりまるふ
後白河院白拍子乗願を召ちょうあいあり
化粧田の地をあたけるふみぐれるせるるぐ人ふ
かめすあら見をみぐるあげたけれぐり時ふあれせる
ものごとくかくあるさせるとのみとこのりをとり時
うちすてあきーをみるどげきるんまりくひるるを
えぐめとーるおのれるよう時ぐひげまりをゆきまるぐ
より時をるろれーまりんとるふくへあんせんを
むりけるとぐひるかまるくきとえより時十九
万人のぐんぜをのるれり京へせあのぐ
まるりどきたるるよ義久三年六月の事



らるくくふ義久記とのふ本ふるえくり
京勢つくふまるけるまべよう時ぐたるくふ
とーて後白河院をあきるの山土御門院
とも佐の国ゆ徳院を佐渡の国へ
うるーるまるりけみるど佐渡ゆてかくるま
させ玉ふーみさるぎ今れて佐渡ふ在り
●さそよう時ぐる金院の由孫をみるどて
あーるる三王を人王八十五代後堀河院
とーるるよう時かるうふ三帝とふの
まるふ後くくうるーるりしのち敗落も
あるせるるぐ後ゆそかくるまさせあるう
●よう時かるるあくぐまるうありけるまべ
血をるるるて死ーたるるみるどの
けんぐちあるるるけるりと人くく
かげどふらけけふとぞ

第六図

かくてよう時へんーるーけれども
きふあくぼしあるあるふあしかるち
だろりやてあるのるるけまびるるのそこぶん廿
どものにをこびめてよう時のうせーとりうきま
あるかをまるるかのんあのんがぶ父花柳十次
べるをめーよるるきあてよう時ぶうせまるよー
をかるりさそのひけるやう月ー時どの
かくあしるるまぶたうぶえかしあきま
ーえまてうつけてうるきぶーうとふ
あきそうのまとやまーさうつのやまし
ゑやうのたかもやうえとかるるう
のるめくもひろう臣ことしいそうまあの
びのこもゆそれこうきぶーうのりるのゆて
ゆえさまさうりかきらぶーもやうさゆて
ひやうきのさまわるーかべべー二日のうちゆ
るふうのるとうつうんひやうきのアまうひとそ
かこふくりうせまりーうーひううまべー
そまーまぶいそのとうんゆうきぶーうをあげ
あくゆをつけてまりるべーと北のちのあゆせ
ふすゆべるるうきぶーうふへふるうちの秋
うをとうりてよう時ぶうきぶーうをあもやうえ
うーけり

第五図

さそ此日よりきひのふ竹川とふ

白菊丸

菊寿童

嘉永二年己酉春新版稗史目録

邯鄲諸國物語 十編 柳亭種彦作 十一編 一陽齋豊國画

菊壽童殿の盃 十編 山東庵京山作 大尾編 一陽齋豊國画

朧月猫の草紙 七編 山東庵京山作 大尾編 一勇齋國芳画

春の文しらの艸紙 三編 山東庵京山作 四編 一陽齋豊國画

仙女香七變化粧 二編 十返舎後一九作 一陽齋豊國画

狙公真實錄 初編 笠亭仙果作 一勇齋國芳画

隅田川月姿見 三編 式亭小三馬作 一陽齋豊國画

美艶仙女香 一包四十八銭、素問屋 京橋南伝馬町三丁目 坂本氏製表

黒油美玄香 坂本氏製表

榮久堂 江戸芳町親仁橋角 山本平吉版